

報道機関各位

長岡市教育部科学博物館長



新しい技術トレハロースを使った保存処理が完了 1日間 幕末の輸送船「順動丸」シャフトを一般公開

今年度、長岡市が資金の一部にクラウドファンディングを募り多くの支援をいただきながら実施した市指定文化財「^{じゅんどうまる}順動丸シャフト」の保存処理がこのたび完了しました。これを記念して保存処理後の順動丸シャフトを一般に公開します。公開日は3月10日“砂糖の日”。糖類（トレハロース）を使った安全で新しい技術で世界的にも注目される順動丸シャフトの保存処理の成果をご覧ください。

つきましては、下記のとおり概要をお知らせしますので、周知にご協力いただくとともに、ぜひ取材くださるようお願いいたします。なお、報道機関向けに先行公開を行いますので、事前周知や詳しい取材にご活用ください。

幕末の輸送船「順動丸」シャフト 一般公開

- | | |
|------|--|
| 1 日時 | 3月10日（日）午前9時30分～正午・午後1時～3時30分 |
| 2 場所 | 長岡市寺泊 汐見台駐車場（旧寺泊中学校跡地） |
| 3 内容 | ・保存処理後の順動丸シャフトの展示
・「順動丸の歴史」「順動丸ゆかりの歴史的人物」「保存処理の方法」のパネル展示
※見どころは、安全なトレハロースによる「保存処理の方法」の作業手順をパネルと映像でわかりやすく紹介するところです。 |

報道機関向け先行公開

- | | |
|------|--|
| 1 日時 | 3月4日（月）午前10時～11時 |
| 2 会場 | 長岡市寺泊 汐見台駐車場（旧寺泊中学校跡地） |
| 3 内容 | 当館学芸員が順動丸とシャフトについて、保存処理の指導に当たった東北芸術工科大学の伊藤幸司教授が処理の経過について解説します。 |

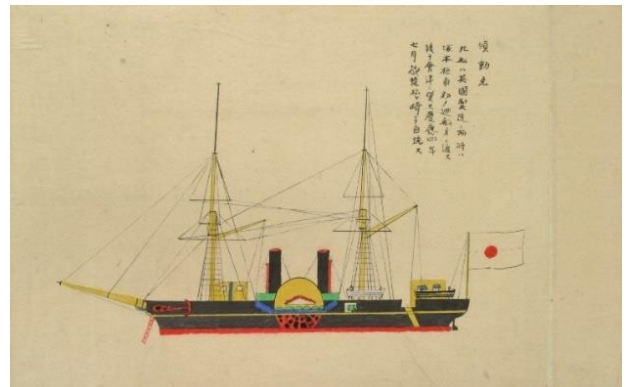
※「順動丸シャフト」、「保存処理の方法」について詳細は別紙をご覧ください。

（問い合わせ：科学博物館 小熊）
TEL 0258-32-0546

【順動丸シャフトについて】

順動丸は江戸幕府が所有していた外輪式蒸気船です。勝海舟や坂本龍馬、徳川家茂、長岡藩第12代藩主・牧野忠訓や河井継之助など、幕府の要人・関係者を乗せて幕末の海を航行しました。戊辰戦争では会津藩が幕府から借り上げて、各地の戦場に兵や武器を輸送していましたが、慶応4（1868）年5月、寺泊沖で停泊中に、出雲崎方面から近づいた新政府軍の軍艦から不意の砲撃を受け、燃料切れのため沖に逃げる事ができず現在の佐渡汽船寺泊港付近で座礁しました。

敵方に奪われるのを恐れた船員たちは、密かに船に爆薬を仕掛け、順動丸はここに自爆しました。その後、残ったシャフト（外輪の車軸）が引き上げられ、寺泊水族博物館入口など場所を変えながら展示されてきましたが、平成23年5月に一般公開を終えてからは、寺泊にある市の倉庫で保管していました。



順動丸「遊撃隊起終並南蝦夷戦争記 附記艦船之図下」
(函館市中央図書館所蔵) 転載不可



保存処理を終えた順動丸シャフト（令和6月2月撮影）

【保存処理の方法について】

通常、出土金属製品の保存処理には取扱い上注意を要する合成樹脂や有機溶剤を使いますが、今回は人や自然に優しく安全なトレハロースを使用しました。指導を受けながらシャフトの保存処理を実践したことで、今後も当館で継続的にメンテナンスができるようになりました。

これだけ大きな金属製品をトレハロースを使って処理するのは、世界でも初の試みです。保存処理方法に関する詳しい内容・コメントにつきましては、今回指導をいただいた東北芸術工科大学伊藤幸司教授までお問い合わせください。（伊藤研究室直通電話：023-627-2281）



保存処理の作業の様子